

軍記

內務省圖書

第.....號

書部.....類

函.....冊

共六

和書門

七二六類

二七四一八號

一八八冊

六冊架

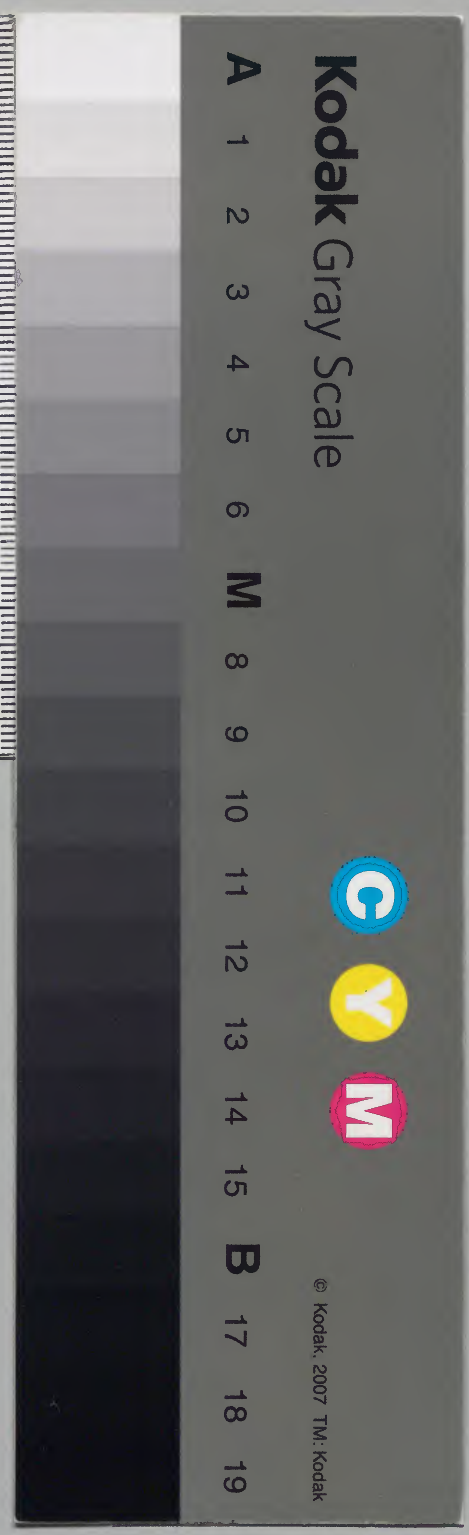
392

內閣文庫

二七四一八	和書
二四三	類
一六八	冊
一〇	架

內閣文庫	
番號	和 27418
冊數	6 (1)
函號	143 392

143-392



跡部光海著
姓源名良賢後良頭
赤宮内

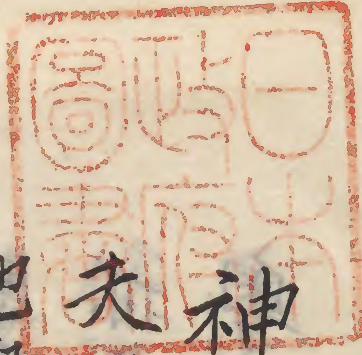
上二一 陽廿二日

乃



明治十二年購求

43-305



神代渾沌草序

夫大日本豐葦原中津國者國常立尊所與天

地與成之靈域而伊弉諾尊伊弉册尊賜瓊文

成之立國中柱永為日神萬代不易之鎮座

實宇宙之冠萬國之秀也日本紀三十卷帝王

系圖一卷者正史之粹然者而神道王道具備

大成其第一卷第二卷稱神代卷特闡明期道

之天人唯一宣著君臣之大義不易所謂神言



神勅也而舍人親王述而不作永賜無窮宗道
盡敬天皇祭之於山城國藤森社有志此道者
孰不仰之采至解此卷者則今梓行于世有宣
賢之釋日本紀正通之神代口訣兼良公之神
代纂疏兼俱之神代抄及直指抄環翠抄固純
駁雖不一而各用其意者也其他數家之解說
亦未免犯儒佛習合之禁則不知何所適從也
粵吾山崎重加翁有所受而深探淵源有所據

而遠致秘蘊出類拔萃悅年著風水草以永其
傳也受其傳而發揮秀出者從一位藤原公通
公及出雲路信直而已是以至風水草則獨
附與公通公也其他門人親炙倍侍各有所得
或私叔以傳錄者亦多焉若竹下青山文學於
出雲路信直又斯有年焉嘗錄其說名曰神代
三諸草比之於他之解說未嘗有如此之善則
其功可謂勤矣跡部光海君初得青山文之傳

又聽之於淡川春海大商量研究講磨切劘爾
後累年工夫益精普求翁之遺傳盡心力搜索
又得公通公之門人玉木正英丈之傳所到有
精妙近者悅遠者來門生施及諸國且改正輯
補其說而不措齡筭超六十享保戊戌秋翁之
道統藤原公通公下向武江光海君始見公受
正傳得要領粵因三諸草撰擇折衷增補演繹
題曰神代渾沌草蓋取諸神語以寓希斯道之

有所總括之意也神道之奧義雖不能盡於斯
而學者之不誤路徑門庭棄此篇又何求乎此
篇之成實無窮之至寶也近歲光海君眼病妨
功故平日之徒與筆削之勤因書其本末谷希
為神國之人而為守斯邦守斯道之徒云爾

享保五年庚子季秋良辰

重垣翁友部安崇序

天瓊矛泉洋平坂

千人所引磐石ノ丈著シク人ナレハ御相談相千ニ成タルハカリニ
是也全怪異ノ言非其證ハ類聚国史續日本紀ニモ親王一人ノ御名
又何ノ神何尊ト其證ハカリアルヲ以テ見ヘシ舍人親王ハ垂加社語
人休ノ神ノ神待ト造ハカリアルヲ以テ見ヘシ舍人親王ハ垂加社語
心化ノ品ノ在座ケ曰日本紀ニハ天武天皇第六皇子釋日本紀ニ
山川中木等ノ重ニ神号未決博識英才明智實徳ノ御事ナレハ神
國常主尊天御中主尊大山神速秋津日道ノ宗源ニ達シ玉ヒ兩部習合ノ雜説ヲ除キ
命ノ數是也氣化神ト陰陽五行ノ氣化合シ神代ノ神光天人唯一ノ道ヲ發明シテ揚ケ
疑結テ始テ人休ト坐スルヲ云伊奘諾尊伊奘
母尊ノ類是也身化神事也舍人ノ訓藤森ニテハイ卫ヒト云ト
ト人休ヨリ人休ト胎生給フヲ云天照大御素
彥ノ鳴尊ノ妻是也心ヤト云ヘ氏垂加翁ハ藤森ノ訓ヲ用玉フハ
化神トハ形存坐神荒ニ玉ヒテ後藤森神社ニ祭り御子淡路麩
三非ス伊奘諾尊大照大神ノ如キ至テ貴キ帝即位ニシクテ御父ノ事ナレハ崇道盡敬
照大神ノ何事ニモアレ深ク感ニサセ給フ所アリテ心ヲ凝ラセ給ヘル靈ヲ封シ留サセ給ヒテ神号ヲ奉リ崇
中尚男命田心梗命湍津姫命市杵嶋姫命ノ妻是也此四化ノ品ヲ知テ神道ヲ信ルヘトト傳ハ侍ル
○豊秋津嶋ト定記云此國中ニ成出シ族ヲ若此國ノ道ニ疎クシ奉ラハ永ク神道ノ信心ニ北月十奉ニ
神皇正統記云此國ハ神道ニ違ヒテハ一日七月ヲ非クニシキ懼レ也垂加靈社云道

者大日而女貴ノ道之而教者孫田彦神ノ教也又云夫我神道宗源在土金而其傳悉備於此書又云神
道ニ一大事ノ入派傳ト云アリ入派ニメ始終ヲ受ク教即チ土金ノ道是也幸者我朝ハキノ志有リハ
云神道ニ志々人ハ芝神代志神武紀ヲ拜見シ熟讀既味スレテ次ニ旧事紀古事記古語拾遺等ヲ拜見
レ羽翼トモ可也伊勢傳鎮座傳記云神道之化不可以示非其人也ト堅ク此列ヲ守リ撰リニ口ヲ開キ人ノ傳
異國ノ道習合附會スカラルノ古神道ニ極言ニ
也昔朝廷ニテ度々日本紀ヲ講セラレ其事日本後紀續日本後紀
三竹宮條彩園使等ニ見ヘタリ講畢テ師ノ禮ヲ履メ竟宴ヲ行ヒ給ヒ
講席ニ預ルニ夜王大臣己下六位己上知寄ヲ依リ琴
琴系會ニ歡飲竟宴ス博士及都議物ヲ賜
羞有リト云ヘリ凡ソ芝ノ我園ノ正史ヲ拜見シ冬
異國ノ史籍ヲ見ヘシ於ラズハ本ヲ忘レ末ヲ勤
ハ此理ナラシヤ故ニ今其外家々ノ書古事記等ヲ取集メテ正説又
撰テ三十卷トシ玉フ之舊事本紀ハ推古
天皇ノ御時既チ皇子藤我馬子ト相談ノ編
集セテ夕リ神代ノ文字ヲ漢字ニ改テ填

皇延曆十年十一月

癸卯從四位下行民部大輔兼左兵衛督

皇太子奉子菅野真

道等奉勅撰日本

後紀四十卷有序自

桓武天皇延曆十一年

正月丙辰至淳和天

皇天長十年二月乙亥

左大臣藤原朝臣冬

嗣以下七人連署續

日本後紀二十卷有序

自淳和天皇天長十

年二月乙酉至仁以

天皇嘉祥三年三

月己亥大政大臣從

一位藤原朝臣良房

以下二人連署日本文

德天皇實錄十卷有

序自嘉祥三年三月

己亥至文德天皇

天智二年八月乙卯

左大臣正二位藤原

朝臣基經日本三竹

定錄十卷有序自天

智二年乙卯至光孝

天皇仁和三三年八

月乙卯左大臣從二

位左近衛大將藤原

時平以上六卷

國史一編ス〇舍人

紀王天武天皇第六

神代ノ文字ハ忘部正通ノ神代口決曰神
 代文字象形也トアリ又ト部家ニモ傳アリ
 漢字ニ改リタルハ皆此皇子ノセラレタル
 絶タルヤウニ成ユキ日本ハ文字十久夷國
 ノヤウニ云習ハセリ十六代應神天皇ノ御時
 テハ神道ハカリニテ神代ノ文字行ハレケ
 レハ百濟國ヨリ王仁ト云者論語千字文シ
 持來リテ教ヘシヨリ次第ニ西土ノ書アリ
 子ク學ヒ知リ儒道モハヒユレリ三十代欽
 明天皇ノ御時佛經渡リ敏達天皇用明天皇
 ノ御時アト子ク此ヲ學ヒ益ハヒコレリ天
 竺ノ梵字多羅尼夷狄ノ詞モハビコレリ老
 氏力書モ傳來テ神道ハ次第ニ衰ヘタリ忠
 孝ノ大義ヲ思フ人ハ悲ムヘキ下ノ石ノ舊
 事紀モイニ夕草稿下見ヘタリ雜説モアリ
 又同シ一ヲ書タル処多シ正書ニ非ルニヨ
 リテ勅題ヲ賜ラス只舊事本紀トハカリ号
 セリ百事紀ハ全部シタル書タレモ此モ雜
 説アリテ正シカラス神道ノ本意ニ叶ハサ
 レハ勅題モ賜ラス只百事紀ト号セリ然レ
 凡事シトルニハ用ル下多シ舍人親王モ更
 シハ此書ニ殘シ置玉フナリコトヲ以下用
 本紀回事紀百事紀ヲ合セテ三部ノ書ト云
 日本書紀ハ正説ヲ撰取リ始ヨリ終ニテ
 神道ノ正傳ヲ以テ土金ノ意ニテ貫キ玉フ
 十リコレニヨリテ亦史ノ中ノ正史トス此

給フ壽六十歳山背國深草山麓藤原屋ニ葬シ奉ル即今ノ藤原也詔シテ大政大臣ヲ贈ル壽壽天皇天平室宇
 元年夏四月九月壬子大炊王ヲ三子皇太子トス二年秋八月太子位ニ即キ給フ三年夏六月皇考ヲ追尊
 以崇道盡敬天皇ノ号ヲ奉リ給フ兵政所ノ新ハ桓武帝賜ヘリ

我国勅撰ノ書ノ始、日本ト云題号、誠ニ大切
ナル、上ノ神代ヨリ、下後世ニ至ルニテ、天子
ノ正統神道ノ、龜鑑トナル親王ハ中興ノ聖
戈ト云ヘシ、殊ニ神代卷上下、神武紀ハ大切
ナル書、記録ニシテ、直ニ神道備ル、神聖
ノ御言行、則天人唯一ノ道、神代卷ヲヨク
合点シ、明ラメタリ、神武紀ヲ合点メ、明ラ
メサレハ、神道成就セスト、垂加翁宣フト、
ワケハ、別ニ傳アリ、サテ舊事紀、百事紀ハ、右ノ
通りニテ、作者ノ意アリ、此書ハ親王ノ作意十
キニ依テ、序跋ヲ書玉ハス、敬シノ御心見レシ
殊ニ神代卷ハ、神語、イヒ傳ヘ、書傳ヘタル、和語
ヲ、其二、書載テ、漢字ヲ以テ、填テ、文ヲナシ、玉
フナリ、和語ハ、カリニテ、漢字ハ、用ヒ玉ハヌカ、ヨ

シトイヘ、レハ、微意アリ、推百天皇ヨリ、以
ノ書ハ、和字之、既戸皇子、漢字ヲ以テ、舊事紀ヲ作
レルヨリ、益漢字天下ニア、子ク、神代ノ文字ハ、
知ル人少ニシテ、假名書ノ、和語ハ、輕ク成行ク
ユヘニ、後世ニ、廢レシ、一、量リ思召テ、漢字
ニテ、填玉フ、又漢字ニテ、和訓ノ解トナル
一、モ多シ、傳識ノ御事ナレハ、西土ノ諸書ヨ
リ、取用テ、編集シ玉フ、漢文ニテ、讀テ、モ無類
ノ文法ナリ、サレ、此書ハ、和語ヲ以テ、説ク
一、之、切此書ハ、一家全備ノ文ヲ、本段トシ、家
々ノ書ヨリ、取用タルヲ、一書ノ、ト、書玉フ
ナリ、本段ヘ、一ツニスヘテ、見ルヘシ、混沘正直ノ
道三種神器ヲ、本トシ、正統ヲ著ハシ玉フ、

クニヲ反セハキトナル此二重及シニ浮橋ノ上ニ
立シテト云此夕ノ字ヲ残シテ下ノ夕シヲ反セハ
千ト成ルソレテ夕チテト云一之古今集ノ歌ニ
袖ト千テト云詞モ夕シノ反シ千ナレハ此ハ夕
シト云一ニテ袖ヒ夕シテト云一之此類一重
及シニ和歌ノ詞モ皆此意ナリ人ノ詞自ラ通
音アル一之又四化ノ神ト云一アリ此四ツシ
以テ見ワケサレハ神語ヲ分明ニ知テレ又
一之四化ト云ハ造化ノ神氣化ノ神身化ノ
神心化ノ神之造化トハ天地自然ノ運行言
業ヲ以テ名ツケカキトキ尊号ヲ夕テ
ツリ形ナキハ神ノ國常立尊五行ノ神ノ如
キヲ云ナリ氣化トハ陰陽五行ノ氣妙合メ
凝リ神具リ始テ形質ヲナシ生レ出ル人体

高

シ云ナリ夕トハ庭ニ池ヲ掘テ置ニ自ラ
魚ノ生スルカ如シ伊弉諾伊弉冉尊高皇產
靈尊ノ如ク云ナリ身化トハ氣化ノ人生メ
男女アレハ夫婦ト成テソレヨリ生レ出ル
人ヲ云ナリ天照太神月讀尊素戔嗚尊ノ如
キヲ云ク又形化ト云ナリ神道ニテハ身化
ト云カヨシ心化トハ真心イツハリナキウ
ヘニテキツト御才ホヘアル御心ヲ云伊弉
諾伊弉冉尊左右ノ御手ニ白銅鏡ヲ以テ天
照太神ノ御心御疑暗テ田心姫湊津姫市杵
寫姫トアラハレ玉ヲ奉シタル如キヲ心化
ノ神ト云ク此四化ノ神ヲヨク明メカレハ
書ニヲイテ惑多シ能ク辨フヘキナリ

叔神道ハ妙法要集曰汲一氣之元水不嘗三
教之一滴ト云フ三教ハ異邦儒老佛教ナリ
此ヲ少元雜レハ兩部習合トナレ也和訓ヲ
以テ一筋ニ神聖ノ道其教ヲ説テ傳授スル
ナリ又大織冠曰我唯一神道者以天地為
書籍以日月為證明コレ神代ヨリ傳來スル
処ノ語三教ノ一滴ニカニヒナキ処ナリ忌
部正通辭ノ神代口訣曰古語大道而以理説
事以事説理辭假嬰兒心求神聖至加翁曰夫
我神道宗源在干土金而其傳悉備於日本紀
其神代卷有專言天者有專語人者以人談天
以天話人者亦有之以明天人唯一道然古來

之説有詳有畧有異天皇博聚之其紀之不
敢取捨之敬之至也若上宮太子籙我宿祢撰
事紀安麿之撰百事紀則皆一決成之是故以
親王之紀為方代之達書其皇代紀中神代之
遺事間出而間現焉我人所當逢塩土老翁而
受其傳也見其紀ト云深キ意也此語トモヲ
ヨク合点シテ此ヲ本ニナシ神道ヲ學ヘキ
ヨシ至加翁ノ教也舍人親王ノ後又右ノ三
教ヲ習合シテ家々ニ説ヲナシ宗源ノ正傳
衰ヘアヤシキ道ノヤウニ成下レリ至加翁
深ク神道ヲ尊ヒ博織英才明智實徳ヲ以テ
正傳ヲ撰ヒ正説ヲ取リ三教ノ習合雜説ヲ

除キ集メテ大成シ玉ヒ上神代ノ神光ヲ掲ケ出
シ下後世ニテ正傳ノ教ヲ垂玉フアリカクキ御
事我國ノ威光ヲ一ニシ玉フ垂加靈社ト号スルモ
神明感應私十キ也此ヲ以テ神代卷ハ伊弉諾
伊弉冉尊天照太神ノ勅ヨリメ皆神語ナレハ力
リニモ疎ニ思ハス尊フヘシ神武紀ハ天皇ノ日
神ヲ尊ヒ玉フノ御聖德ニテ再ヒ豊葦原中国
ヲ治メ玉ヒ神道全備ノ御功業王道ノ明カナ
ル処敬ミ思ヒ天人唯一ノ道ヲ以テ三十卷ヲ
見ルヘシ日本ハ風土清ク神德ア二子ノシテ
異国ヨリモ勝レ人物ノ生質モ清淨ナレハ神
国ト号セリ垂加翁曰道ハ大日靈貴ノ道教
ハ猿田彦太神ノ導キ玉フ処トヨクク敬テ可學

舍人親王傳

親王ハ

天武帝ノ皇子諱舍人

持統帝九年淨廣戴ヲ授リ

文武帝慶雲元年二百戸ヲ益封シ

元正帝養老二年一品授カル又内舍人大舍

人衛士ヲ賜ヒ封戸ヲ益メ二千戸トス四年

復五月奏上日本紀三十卷系圖一卷秋八月大

政宮夏ヲ知

聖武帝神龜元年五百戸ヲ益ス天平七年冬十

續日本記曰養老四年五月一品舍人親王奉勅備
日本紀至是功成奏上紀三十卷系圖一卷
舍人親王者天武天皇第三御子四十四代元正天
皇養老四年五月二十一日功夫甫就獻於有司上
起天地混淪之先下終品彙甄成之後神胤皇裔商
指掌約然慕化百風舉目明白纂疏
四十五代聖武天皇天平七年十一月己巳知太政官事一
品舍人親王薨遺從三位鈴鹿王等監護葬事其儀
准天政大臣命王親男女悉會葬處遣中納言多治比
真人聰守等就第宣詔贈太政大臣其後及淡路帝即
位天平宝字三年詔以舍人親王曰崇道盡敬皇帝
蓋以帝之父也續月本
紀纂疏

城列 藤森神社領座 垂加卓

雅古帝以往書和字也集此書為漢字又曰神
代文字象形也應神天皇御守異城典經始來
朝以降至推古天皇聖德太子以漢字附和字
按本朝素有和字中古斷絕仍講此書者貴訓
意而不用文字私說
問履中天皇四年始置國史記言事達四方志
然則敬世之間所記行言語豈止充棟汗牛
而已哉而今一簡不傳於世何謂也曰古以來
蘓我氏一家秉國柄久矣天下府庫之書莫不
悉歸於私家而及皇極朝蝦夷大臣臨誅盡焚
天皇記國記珍室獨得灰燼之餘者回事紀數
卷耳歷代火籍所以亡滅有如是纂疏

字

域

歷代本朝国史

先代舊事本紀十卷

與蘇我馬子宿祢奉勅修撰

古事紀三卷

元明天皇和銅年中太朝臣安磨撰

日本書紀三十卷 元正天皇養老年中一品舍人親王

奉勅修撰

續日本紀四十卷 民部太輔菅野真道奉勅文武以後

平城以前桓武天皇延曆十六年八月十三日上奏

日本後紀二十卷 石大臣緒繼平城以後仁明天皇養和

七年十二月九日奏

續日本後紀二十卷 大政大臣良房奉勅撰仁明天皇或

云貞觀十一年八月十四日奏

文德實錄十卷 石大臣基經等上實都良香撰

国號考

三代實錄

五十卷 陽成天皇元慶二年十二月十三日奏

左大臣時平勅撰實大藏善行撰

清和陽成光孝延喜元年八月二日奏時平

以上六國史ト稱ス

豐葦原千五百秋之瑞穗国

名義本 鈔二出

大日本豐秋津洲 同上

浦安国 海内安 任諸子各有其境上

寧ノ義 四海安靖ナルヲ以テ浦安国ト云

細矛千足国 金氣ヲ以テ名トス

以軍器具足也

大八洲国 日本國名

日本國名

磯輪上秀真国

此亦五穀

以秀出萬土

玉墻内國 稱義

稱義云

虚見津日本國鏡速日命
磯馭嶋海水自凝
名ツルル

大倭國又作大和國名以惣名トス按スルニ大倭大和日
本共ニヤトト訓ス義ハ本鈔ニ載ス諸鈔日本ト云倭ト
云ハ漢土ノ人ヨリ我國ヲ呼ノ名也又曰日本ト云ハ倭
漢通用稱義ト夫日本ノ稱神代卷ノ中ニ出倭ノ名神
書ノ中ニ多クアレハ漢土人ノ言ヲ待テ名ツクルニ
非ル一必セリ又神代中所謂瑞穂國ノ浦安ニ秀真
ニ義稱實ニ至レリ何ヲ定ストノ日本ト稱ノ始テ義
ナラシヤ或ハ日出ノ地ニ近キツ以名トスト云或ハ浮屠
大日ノ説ヲスセシ惠ス人類ハ辨スルニタラス
右我朝ノ正史ニ出ル處ニ各有義知スニハアルハ
カラス此外曰耶馬臺或耶馬堆後漢書曰倭奴同上曰倭
面倭人國魏志曰姬氏國野馬臺詩也二梁室誌所作ト
云此本傳ニ無此夏若果ノ誌

カ作ナリ何リ曰日東起於唐詩人曰烏印國善無碑曰阿每郎
信スルニタラス續三國以為泰伯之後魏志晉書以為徐福之後通鑑以
行實以為泰伯之後此史梁書以為徐福之後前編以
為阿每氏唐書以為惡倭名更号曰日本同上之類ハ皆
異邦萬里ノ外高舶僧侶自誣ルノ言ヲ信シ書ニ
筆スル者ニ稱スヘキ一ニ非不俗或ハ此等ノ
言ヲ取テ文飾ノ助ケ為ルハ無稽ノ弊乎又
謂之枝桑魏志謂之日城揚賦云若木注云君子
國上之類我邦ノ人好異者適外國ノ書中ニ近似
ノ言アルヲ見テ不知其實達本邦猥ニ口筆ニ
策也自居ルニ夷ヲ以テシ遂ニ我神國ノ外ニ
スルハ何ソヤ垂加翁此誤ヲ辨セラル一詳也

風葉集のしつゝ
垂加靈社山崎敬義

千早振神代代の系影あり
光らるる家系も志月
長川惟足日本記寛実の書法
土師重神會津中将

源重之

万代ましくも魚の如く
原重之

讀書法

正親町白玉丸

教位一位藤原公通

海をもし六志の神代の本
又の家系は乃の如く

渾沌草上之一

日本書紀卷第一

此題号ハ本書ノ大日本豊秋渚ノ上三字ヲ
取テ勅題シ玉フフミトハ傳ニ含之廿二
クノコトハヲ含トハ又直指抄ニ云フルキ
ヲミルト云義ノト云フハ經ノ字ノ意ハ
キタリシト云フミルトハ卷ハ右ハ板ヲ
削リ文字ヲホリ付テ麻ニテアミ卷置
クユヘニキト云弟トハ一ヨリ九ツニテ
ノツイツルナリト口決ニアリ一トハ傳ア
リ桑名熟翁ノ十敬傳ニヨリ十ノ数ニシ
ハシク侍リ一二三ノ数ハヲノクユヘア
ルナリ
一ツハ日ト云辞津ハ語ノ助一ツハハシノノ

ノ牙ヲ含テ神道ノ眼渾沌庚申傳モコノ心ツ
ニニサレハキナシヲ不可含天地ヒラケテ
今日ノナリモ混沌ノハシメノゴロハアルヘシ如
雞子トイヘルヲ諸抄ニ卯ヲワル時一元ノ黃
水ニノイツレヲ首尾羽翼ハミレカタシ天地
ノナリモシカノ如クナレハ如雞子ト云クト
待リコノ心モアルヘケレハコレハ活キ物ヲ
以テタトヘタルニソコヲ以テ天地ノナリ
ヲ形容セリ活物ヲ以テミルハゴノ骨子ニ
竹下青山文曰或人ノ尋ニ牙トイヘルヲ諸
抄ヲ以テ見レハ天地ノハシメハ芦錐ノ如
クニニ侍ルナレハ如此ハアルヘカラスシカ
フノ茅トイヘルハ何ノ形象カアルマト問レ
ニニサレハ天地ノ始ハ何ヲ以テ喻フヘ

キニシモアラ子トシハラク彼象ヲイハ、
烟ノ如ニメソノ勤クモノハ牙ト云
モハハイツクニテモ一ハイ盃タルモノ、
テ精キモノハ日月モナレナリ何ソ芦錐ノ
如クナルモノナラシヤコレトホコ傳ノ心ニ
ノ混沌ノ秘決モコレヨリ推ノ思フヘニスヘテ
關閑ノ意思ハ皆瓊ヲ傳ニゴモレルコトナレ
ハアカラサニハノヘカタニ畢竟天地陰
陽五行ノヲコナハルモ皆十カニコノ牙ヲ
含テヲルユヘナリ前ニ註セシヒラケテモ混
沌ノナリト云ヘルモコノ心ヲ以テ推シテ知ルヘシ

及其清陽者薄靡而為天重濁者淹滯

及ハ其清陽者薄靡而為天重濁者淹滯
又進ニ中界ニ云ヘリ陽ハ湖ラカノ意ニアラハルトモ点セリ卯子ノ内ハ清白ナル水ヲ以テ陽陽ノ子ヲ知レ薄靡ハ

家ヲ現ハシ給ヘルハハスハ隠レリ
然後神聖生其中一馬トハ
天地之定立ノ神也天或地
坐スレテ成定テ後始テ生
三ト云ニ非ス混沌ノ原神ヨ
リ大元ノ醒寤在坐ト雖モ
未嘗ノ場ナレ故テ下サズ
牙トノ記シ給ヘリ既ニ朝
レテ天ト云ト云名之レヨリ
神ト云レテ奉ル也古傳ニ
天地ニ定立ノ神也天或地
定テ神聖在坐事鎮也
ト云レリ云通云有テ故成
天地成天地而有神故生
人倫成萬物此此ニ所謂神
聖ハ天人ヲ合セテ云ヘリ是
元ノ尊神ニメ則帝王ノ徳大
祖御人御御血脉ノ本源ト拜
レ奉ル御事也因テ神聖ノ文
字ヲ填給ヘリ我王ノ御筆力
眼ヲ着ヘシ凡ソ神書ニ音ヲ假
假レノニ然ニ此等ノ処訓ニ関ラズ

全體ヲ口トツニ説下セリ下ハ国土ヲ主トノ
成カタル横様ヲイヘル者深キ意ナリ扱
天地ノ上下ニ別ル一者先後トコロナルハ
アニ、掌ヲ合セテ上下ハハツトアケタルコ
ロハ、天地共ニツ、シミニメニツトニナリ其
ニル気力登シタル天ノ気ハイツクニテモ充
満メケシノ内ニテモ一ハイ満ルヲ精ト云ソ
ノ精キトコロ隔テ不隔切テ不切不測ナル
コトヲ、妙ト云、合ト云ハイヨク満々テ一ニイ
ニ合ヒ少モ欠缺ナク同断ナキヲ合トハイヘ
ルナリ、地後定ルトハ別ルニ於テ先後アラ
ナレト水気カキテ海陸山川原澤ノ定ル
ナリハ、後ニ定ト云ヘリ、神聖生其中トハ、万物
ノ神ヨ天ニメ中ニモ人ヲ指テ云ヘキ、ナリ

假ハ羊ヲ取ラス音ニ関ラズハ羊ヲ用テ啓言ハ狹植ノ植ハ字ニ意無レ訓ヲ
眼ヲ着ヘシ凡ソ神書ニ音ヲ假
假レノニ然ニ此等ノ処訓ニ関ラズ

ト見ヘキカ為也ト云ヘリ兼良公云論其理三才一致論其生則有天地而有人故曰然後也公説是
近シサレ唯人トノ見ハ如何侍ラン深ク察セラルヘシ神ノ訓ヲ鏡ノ中略トシ或ハカガルノ事トシ又赫キ見
ルノ訓トス成レト神ノ尊ク在坐テ何トモ名付ケ奉ルヘキナケハ唯戴キ崇メテ上トヤセシ説殊ニ勝レテ神
侍ル其中トハ天ノ真中、地ノ
正中ノ心木心柱ノ如ク扶テ云
其中堂ニ天地ヲ統御シ給ヘ
主宰元靈ノ神在坐リ是
我大君ノ本源ニメ其神聖ノ
神光天地ノ中ニ滌給充満シ
神ノ在坐マ又方モ無レ此御
神徳ヨリ人民萬物モ化生セ
ル也古ノ字ヨリ馬ノ字ニ至ル
六十五字ヲ序分ト云説侍心
是後ニ得ル序文ノ謂ニ非ス
一節ノ大綱ヲ指テ序分ト云
曰事紀ニ古者冠冠混沌ト
有リ東家秘傳ニ毛上始混沌
ト記サレハ古ノ字ヨリ本支
ル下以白也一記ニ馬ノ字
以上ハ西土ノ文章ヲ給ニ綴
リテ開闢ノ理ヲ述給ヘリト
實ニ故曰以下ハ文体ニ変
リテ見ヘ侍ト物ニ意アリチ
更ニ綴リ給ヘシ非ニ唯振古
相傳ニ説ニ文字ヲ填給ヘル

天地未割云ト云ヨリ、神聖生其中ト云マテハ天
地人トケ始ルノ全体ヲカヒトツテ、一ハ、七ノ
ナリ、故曰開闢之云ト云、以下下段次有神伊
特諾尊伊特丹尊トノ一ハ、二至ニテハ、右ノ
アヲ、マシ、其、ウ、ク、ハ、乾道獨化所以成此純男ト
知ルヘシ、其、ウ、ク、ハ、乾道獨化所以成此純男ト
イヘル、ハ、天先成ノコトナリ、ヲ、含、カ、ル、ト
前テ天先成ノ理トクトイハレ、次有神トイヘル、以下
ハ、地後定ノコトナリ、説、泥、土、者、尊、成、土、者、尊、大、道
假ニ説如此五行具備ノ上、天地ヲ父母トメ、人
体ノ伊特諾尊伊特丹尊ノ御出生アリシハ
コノ知ノ神聖生其中トノ一ハ、二、三、合セリ、シ
カレハ、人体氣化ノ神ヲ指テ、イヘルトシ
ルヘシ、下段ニ於テ、氣化ノ神ノ初ハ、伊特諾
伊特丹尊ナレハ、強テ此神聖トノ一ハ、二、尊
者、大、象、也、者、厚、其、道、則、定、天、地

伊特丹尊ナレハ、強テ此神聖トノ一ハ、二、尊
者、大、象、也、者、厚、其、道、則、定、天、地

主造化我國自神代此道炳萬全非區內外之典籍

ト指テ、イハルモ、其ノイワレナキニアラ子ト先コ
ノ処ニ於テハ、タ、天地ヒラケテ、人ノ子、人ノ
氣化セルヨシト、ハカリ見テ、神号ヲ指ヘカ
ラズ、コレ則テ、天地人ノ始ヲトキ出ス、ヨリ
味フトキハ、如此ニテ、其意明ラケシト、知
ヘシ、神聖ト云字ニテ、ウメテアレハ、聖ノ
中ハ、造化ノ神ニ用ヒス、人ニ用ル、
故曰開闢之初、剝壤浮漂、辟言猶游魚
之、浮水上也。于時天地之中、生一物
狀如葦牙、使化爲神、號國常立尊ト
訓、美舉等也。下皆倣此。

故ノ字、竹葉系、疏ノ本ニ作ル、故以下、吾國太古ヨリノ傳來ノ説ヲ述ト云ヘリ。旧事紀三モ所謂ト舉給ヘハ更ナリ。
神出、生ヲ、祝給ヘリ、奉ル、祝文ニ見、タレハ、
國、帝王ノ奉元、天地ト、
光ル、養也、
ノ、養、豐、
心ヲ著ヘシ、
炭動スルヲ、
リト訓セリ、
トハ、水中ニ泥ホ、
未タ、
泥、
取テ、
ニ、
見テ、
ニ、
今、

故曰云ニ、コノ以上ヲ、序文ト見、又上ヲ、兼ルト云
説アシ、一説ニ、古語ト云ハ、次、
ヲ以テナリ、故トハ、前ヲ、ウケス、
ス也、曰トハ、イヒワクルナリ、
金ノシマリテ、ワカレントスル時ノ心ナリ、
訓傳アル、
シテ、大元氣ナリ、
其、
國土成就スルニ、
御名ヲ奉ノ、
付テ、
リニ、
モテ、

天地ヲ云ト古語
ニモ侍ル常ハ多古鎮ニテ
ニ易ラサル云之ハ卓後自
之ハ又之ハ堅固正直ノ
金名ノ稱國ハ天地ノ體
主ハ天地ノ性也夫國ノ以テ
所ハ帝王ノ任是天子柱
ノ本基皇統無窮ノ根元
也

至貴曰尊自餘曰命トハ
夜王文之ヲ項メセ給ヒ君臣
上下ノ分ヲ嚴ニシ給ヘリ而後
ノ厚キ宛ヒ奉ルハ之ヲ字
訓美譽等トハ古キ詞其
僣用ヒサセ給ヒテ上下通メ
ト云セ也至テ貴キハアタ
ノ御事ト云シ奉ルハ御
餘リノ臣下等ハ其人ヲ格テ
身事ト云シ奉ル也又君ノ御
事ヲ奉行スル者ナレハ同ク
ミコト、稱スル云ヘリ、下階倣之
トハ、その命ノ字項給ヘルニ、心ヲ用ヒ給ヘル後、皆此例ニ倣フ也。

人代末世ニテモ、ノ國常立尊ハ、ハシテ
ス、一物モ此國常立ノ尊ノノリウツリオ
ハシテサツト云フ、十シコノコトハ、
モテ常立ノ尊トシ中奉ルナリトコシ
十ハ、ニ玉フユハニ末世人代マテモ日月
モ地ニシテ、四時モ時ヲタカハス、人物斷
絶セヌハ、此國常立尊ノ神徳ニアラスヤ
トコシ、十ハニ、ト云モコレヲ神道ノ
根本ナリ、ノ尊ハ、天地全体五行全具
ノ神ニ、コレテ、上ニ、ノ、天地末
割陰陽不分明、淨沌如、雞子、溟滓、而念、
ト云モ、ノ、十、部、兼、郡、神、道、百、首、
國常立尊ヲ詠シ奉ル歌ニ天地ノ中ニ

ミナタニ草木ニニテ、神ノスカタト見ツ、
恐レヨ、伊勢外宮ハ、國常立尊ノ鎮座ニ
鎮座本記ニ國常立尊、虛而有靈、一、
無形ト云ヘリ、
○良頭云此語混沌ノ、
考フヘシ、神道ノ本元ナリ、外宮ニテ、
受大神御饗都神ト号シ奉ル、又太元神ト
モ、俱生神ト号シ奉ル、神ハ氣ヲ離レス、
氣ニ雜ラズシテ、妙用ヲナシ、玉ヲ垂加公羽
曰神也者、理之氣、氣而出入者也、ト此語ヨ
ク、思ヒ合スヘシ、何レモ、秘訣アル、
俱生神ノ、後ノ一書ニ出タリ、引合セテ知

○次國狹植尊ト國常
ニテ國ヲ之マセ給フ也
植ニ志無クシテ音通ス
立ノ轉語也此中ハ海
充滿テ洲壤雜々シク
魚ノ如キ物ノ既ニ繁
ニシテ其場ナレハ其
ヲ奉リテ國狹植ノ尊
ヲ給フナルハ水ヨリ
ハ生ラセテ生ラセテ
傳ヘ侍ル也

ツキニクニサツキノ
次國狹植尊次豐斟淳尊凡三神矣
獨化所以成此純男

○次豐斟淳尊ト國狹植
尊ノ次ノ御位ニ之セ給
ヒテ國ヲ之マセ給フ也
豐ハ美
和ノ辞也
斟ハ水ノ
名也
淳ハ水ノ
名也
國狹植
尊ト名付奉
ルニ水ヲ現レ給ヘリ
神皇正統
記ニ水ヲ現レ給ヘリ
神皇正統
記ニ水ヲ現レ給ヘリ

狹植ハセハキエシセハ
ヲ及テサシ植ハ土ニ
文字
ニカマ
ワス水ノ中ニサシ
エテクル水カヲエテ
生ル
茶梳ニ水アカノタ
マニハ土ニ
豊トハ豊饒
ノ貞ヒロニリエタカ
ニトル
斟ハクム
淳ハ
マコ
水ヲカハカス火ノ
切ヤク
純男トハ才
トコハカリ
コレヨリ
國ノ常立ノ始ヲ
カケル
リ
國狹植尊ハ水神
豐斟淳尊ハ火神
國土漸クワカレヌ
レ
土ニ地セハカリシ
時ヲ國狹植尊ト名
付奉ル
水ノイサヲシテ
水氣カハキタリ
シヲ豐斟淳尊ト申
ナリ
國常立ノ一神

○凡三神矣トハ三ハ
身俾ノ訓也
天地ニ人ヲ合セ
父母ニ己ヲ加フル
意ヲ以テ看レハ
レト云ヘルハ柱ノ
確定メ動カサル如ク
神徳ノ卓
立メ正直ナルヲ
云ス也
大元ノ一
氣ヨリ水火ノ二ツ
分レテ出テ七
神徳ニテ
洲壤凝固リタルハ
旧事紀ニ三
神ヲ三代ニ之
不唯一代内ニ
三神ノ号ヲ奉
テ俱生神ト記
シ給ヘリ
水中ニ國狹植
尊ト名付奉
ルニ水ヲ現レ
給ヘリ
神皇正統
記ニ水ヲ現レ
給ヘリ
神皇正統
記ニ水ヲ現レ
給ヘリ

水火ノ二神トナシ
レニ乾道獨化有
口決講述
抄ニ後人ノ加筆
ノ如ク云々ハ
全ク此道ニ
クフキ
下ニ凡ハ神矣
乾坤之
道相參
而化云ト
此文ト相對
シタル
其上雖有
秘訣
アルハ
加筆ト見
ルハ力
ラス
シハ
ク
後人ノ惑
ヲ去シ
タメニ
ソノ
大槩ヲ
ノフ
國常立
ノ尊ハ本
ヨリ天地
一氣
ノ神水
火ノ二神
ハ形十
フメ
虚ナリ
故ニ三
神
ヲ
御出生
ニテ皆
男神ト
スルハ
天人
唯一
ノコ
ロナリ
乾道
ハ獨
十
ス
コト
ハリ
アル
コト
ハ
右ノ男神
ハ偶生
ナラス
木金土
ノ三神
ハ水
火陰陽
ヲ含テ
其形實
ナリ
故ニ
天地
ノ道
相參
クテ
ナルト
云ヘリ
ソノ
ウハ
水ハ
火ヲ
カ
ラス
火ヨリ
水ヲ
出サス
故ニ
一神
ヲ
ノ
出生

○乾道獨化トハ道ノ
充塞メ在サル
所莫キヲ云又二氣
流行スルヨ
リ万物自然ノ道
理ノ分レタ
ルヲ云天地既開
クレハ自ラ乾
道アリ坤ノ道
アリ乾ノ道
而
テ君ノ道也
父ノ道也
此素天
カ以テ君ヲ
說地ヲ以テ
臣民ヲ
說也
臣ノ大君ハ
本元坤ノ道
ヲ侍メ乾ノ
道ヨリ獨化
シ給
天地ヲ統御
シテ萬民ヲ
化生シ給ヘリ
故ニ君父ノ道
トハ傳ヘリ
天先成テ地
後ニ
定ル理リナレハ
天ト君トハ
先
獨リ立セ給
ヒテ地ト臣トハ
後ニ
定ルナルハ
乾道ハ道ノ本
原
天ニ出テ君
ニ統御ス人
往トメ
天ヲ戴カサ
ルナレハ山
ノ真
神
トモ君ノ道
ノ外ヲ行
ク
ハ神玉ノ
靈人ナラシ
トコニ
息
一說ニ天地
萬物ノ元靈
一ニメ

○凡三神矣トハ三ハ
身俾ノ訓也
天地ニ人ヲ合セ
父母ニ己ヲ加フル
意ヲ以テ看レハ
レト云ヘルハ柱ノ
確定メ動カサル如ク
神徳ノ卓
立メ正直ナルヲ
云ス也
大元ノ一
氣ヨリ水火ノ二ツ
分レテ出テ七
神徳ニテ
洲壤凝固リタルハ
旧事紀ニ三
神ヲ三代ニ之
不唯一代内ニ
三神ノ号ヲ奉
テ俱生神ト記
シ給ヘリ
水中ニ國狹植
尊ト名付奉
ルニ水ヲ現レ
給ヘリ
神皇正統
記ニ水ヲ現レ
給ヘリ
神皇正統
記ニ水ヲ現レ
給ヘリ

○乾道獨化トハ道ノ
充塞メ在サル
所莫キヲ云又二氣
流行スルヨ
リ万物自然ノ道
理ノ分レタ
ルヲ云天地既開
クレハ自ラ乾
道アリ坤ノ道
アリ乾ノ道
而
テ君ノ道也
父ノ道也
此素天
カ以テ君ヲ
說地ヲ以テ
臣民ヲ
說也
臣ノ大君ハ
本元坤ノ道
ヲ侍メ乾ノ
道ヨリ獨化
シ給
天地ヲ統御
シテ萬民ヲ
化生シ給ヘリ
故ニ君父ノ道
トハ傳ヘリ
天先成テ地
後ニ
定ル理リナレハ
天ト君トハ
先
獨リ立セ給
ヒテ地ト臣トハ
後ニ
定ルナルハ
乾道ハ道ノ本
原
天ニ出テ君
ニ統御ス人
往トメ
天ヲ戴カサ
ルナレハ山
ノ真
神
トモ君ノ道
ノ外ヲ行
ク
ハ神玉ノ
靈人ナラシ
トコニ
息
一說ニ天地
萬物ノ元靈
一ニメ

○乾道獨化トハ道ノ
充塞メ在サル
所莫キヲ云又二氣
流行スルヨ
リ万物自然ノ道
理ノ分レタ
ルヲ云天地既開
クレハ自ラ乾
道アリ坤ノ道
アリ乾ノ道
而
テ君ノ道也
父ノ道也
此素天
カ以テ君ヲ
說地ヲ以テ
臣民ヲ
說也
臣ノ大君ハ
本元坤ノ道
ヲ侍メ乾ノ
道ヨリ獨化
シ給
天地ヲ統御
シテ萬民ヲ
化生シ給ヘリ
故ニ君父ノ道
トハ傳ヘリ
天先成テ地
後ニ
定ル理リナレハ
天ト君トハ
先
獨リ立セ給
ヒテ地ト臣トハ
後ニ
定ルナルハ
乾道ハ道ノ本
原
天ニ出テ君
ニ統御ス人
往トメ
天ヲ戴カサ
ルナレハ山
ノ真
神
トモ君ノ道
ノ外ヲ行
ク
ハ神玉ノ
靈人ナラシ
トコニ
息
一說ニ天地
萬物ノ元靈
一ニメ

○乾道獨化トハ道ノ
充塞メ在サル
所莫キヲ云又二氣
流行スルヨ
リ万物自然ノ道
理ノ分レタ
ルヲ云天地既開
クレハ自ラ乾
道アリ坤ノ道
アリ乾ノ道
而
テ君ノ道也
父ノ道也
此素天
カ以テ君ヲ
說地ヲ以テ
臣民ヲ
說也
臣ノ大君ハ
本元坤ノ道
ヲ侍メ乾ノ
道ヨリ獨化
シ給
天地ヲ統御
シテ萬民ヲ
化生シ給ヘリ
故ニ君父ノ道
トハ傳ヘリ
天先成テ地
後ニ
定ル理リナレハ
天ト君トハ
先
獨リ立セ給
ヒテ地ト臣トハ
後ニ
定ルナルハ
乾道ハ道ノ本
原
天ニ出テ君
ニ統御ス人
往トメ
天ヲ戴カサ
ルナレハ山
ノ真
神
トモ君ノ道
ノ外ヲ行
ク
ハ神玉ノ
靈人ナラシ
トコニ
息
一說ニ天地
萬物ノ元靈
一ニメ

○乾道獨化トハ道ノ
充塞メ在サル
所莫キヲ云又二氣
流行スルヨ
リ万物自然ノ道
理ノ分レタ
ルヲ云天地既開
クレハ自ラ乾
道アリ坤ノ道
アリ乾ノ道
而
テ君ノ道也
父ノ道也
此素天
カ以テ君ヲ
說地ヲ以テ
臣民ヲ
說也
臣ノ大君ハ
本元坤ノ道
ヲ侍メ乾ノ
道ヨリ獨化
シ給
天地ヲ統御
シテ萬民ヲ
化生シ給ヘリ
故ニ君父ノ道
トハ傳ヘリ
天先成テ地
後ニ
定ル理リナレハ
天ト君トハ
先
獨リ立セ給
ヒテ地ト臣トハ
後ニ
定ルナルハ
乾道ハ道ノ本
原
天ニ出テ君
ニ統御ス人
往トメ
天ヲ戴カサ
ルナレハ山
ノ真
神
トモ君ノ道
ノ外ヲ行
ク
ハ神玉ノ
靈人ナラシ
トコニ
息
一說ニ天地
萬物ノ元靈
一ニメ

或ハ雜言トイヘル面白ニ其中ラ自存ラ化生
之神トハ二物ノ發生ヲカタレリ底立トハ
鎮座傳記ニ依田彦息神トナリ又國底
立ノ神トノ玉ル祖ノノ思ヒアハス
又底常通ス 講述云底ノ義ニ根底ニ
通徹セリ元氣ハ神ニ 狭立トハ國セハク
立ナリ又立根通

野
次豊國主尊亦曰豊組野尊亦曰豊香
野尊亦曰浮經野 豊買尊亦曰豊國野
尊亦曰豊鑑野尊亦曰葉木國野尊亦

曰見野尊

豊國主尊トハ火徳ヲ以テ國土成就セ凡切
業ヨリノ御名ナリ 豊組野トハ斟淳ノ
轉語ニ又組トハ土ノカタマリツククニ云
トイヘリサレト始ノ説ヨロシ 豊ニ香野
トハ香ハ火ノ香ナリ節ノカヘシハ火ニ或ハ
フスホレナト云ヘル 浮經トハウキフルニ
火ノ一ヲ云 買ハアシカヒニメ息ノ如ク
動一火ノ支ニミルヘシ 豊國野トハ斟淳ト
同意或ハ國主ノ轉語カ 聖野トハ南嶺ノ
クヒニメ金氣ヲ云或ハ飲食ノ心ヒイテ
葉木國トハハコヲ反テホニ火國也又ハヒ

一書曰天地混成之時始有神人焉號

可美葦牙彥舅尊次國底立尊此處云

此古

天地ノ成就シタルヲ云天モ混沌地モ混沌之
象素疏曰蓋シ天地混成者猶言混沌已分而成天
地也此説ヨシ混成ノ字ヲ見ヘシ

一書曰天地初判始有俱生之神號國

常之尊次國狹植尊又曰高天原所生

神名曰天御中主尊次高皇產靈尊次

神皇產靈尊此云美葦牙彥舅尊

俱生之神トハ天地ト俱ニ生出ルノ神ナリ

口決云与天地俱生神 曰事云我曰亦名天

御中主尊也天地俱生神 伊勢ノ書ニ國常立

尊ヲ俱生神トイヘリ 又曰一書ノ異説シ 高天

原トハ虚空ヲ指セリ 中臣ノ被ニオイテ 高天

原トイヘルハ 授アルニヨリ 此處ニ於テハ

空中ヲサシテ云ヘシ 天御中主尊トハ天ノ主

宰タルトコロノ神ニ 水徳ノ神ニ 葦牙ノ神
矣ナルモノヲ 天御中主尊ト云フレヨリ 國
ヲ開テハ國常立ト云 天開テハ天常立ト云
天御中主トハ 全林ノ御名ナリ 高皇產靈
尊神皇產靈尊トハ 人体氣化ノ神ニシテ

御兄弟十リ、翁曰口次ノ詠ト人体トニツナ
ラヘテ見ヘシトシ、此段事實ハ人体ニ、理詠
ヲフクム、天御中主ハ水徳ナリ、ソノ水ヲム
スフ神ニ伊勢ニテ水中ニ主ト云トナリ、
御鎮座傳記ニ皇親神魯伎天御中主神之兒神魯
美命高皇產灵神是也、皇產靈神是也、
今集卷ニ曰、詠ノ神ノヨシニセリ、
葉集卷ニ曰、詠ノ取ルルハ各別ノ意思アル
ナリ、口次曰、高皇產灵尊者既開闢而於高
天原化生万物神也、神皇產灵尊者靈降而
為生物之魂神也ト云云、此詠ハ未生ノ神靈
ヲ以テ云、此神靈スハ十リ、人体ニ生シ、出玉
フエヘニ已生ノ高皇產灵尊者トミルヘシ、此書
ハ天地未剖トキ一氣ノ混沌タルウナク、一元

水ニメキサシラ、合ルトコロヲ天御中主尊ト申
シ侍ル、高天原ト申ハ高アツノ原ニメソラ中
ト云ル同意ナリ、高皇產灵神皇產灵尊者ト申
ハヨク万物ヲ撫育メ水結ノ徳ニシマヨリ、水
徳ノ天御中主尊ノ御子ノコトクイ、下セリ、天
人唯一ノ姓筆ナリヘシ、万物ノ生スルハ皆水結テ
生ス、其徳ヲ備ヘ玉フ神ナシハ御祖トサシ奉
ルモコトハリシ、伊勢神道ノ建立モコト
コロシ、又國常立尊ヲ帝王ノ祖トシ、天御
中主尊ヲ人臣ノ祖トセリ、國常立尊ヲ帝
王ノ祖トセルハ天子ハ國土ノ主ナレハナリ、
國十キトキハ何ニヨツテ政ヲ行ハシヤ、天
地ハ帝王ノ父母ニテ國ハ水火ノ凝ルニナリ、天
子ハコレニ御メ政ヲ行ヒ玉フ、且又國土ノトコシ

十八ニ三十七天子ノ御徳ニアツカル一十レハ国常
立尊ヲ以テ帝王ノ祖ト申シ神皇實録曰於
高天原ニ化生ノ一ノ神號天讓曰陽神國禪月神
神皇神又ノ名ハ天御中主尊也天地俱生神坐
是諸天降灵之本致一切国王之大宗也徳被百王
惠濟四海歷代帝王宗尊祖方人敬神祇故
世質時素無為而治不肅而化云尔又天御中
主尊ヲ人臣ノ祖ト申奉ルハ人ノ生スルハ一元
水ノ徳ニヨレハナリ人物ノ生ル其始三十一元ノ
水氣ヲ相凝テナレルモノナリ彼天御中主ノ
水徳ニ非スヤ是ニヨツテ人臣ノ祖ト申シ
コレハヒロク人物ノ生スル初ヲ論セリ人ノ胸
中ニモ天御中主ノ尊灵ニシマストイヘ凡ソ
シミノ心ナキヨリモク奉ル一アタハス神道ニ

於テ中ノ字ヲ尊フハ誠ニユハアル一ニフツ
ヨク偽ノ心ヲ生セス年々ノユヌヲフラスヘシ

一書曰天地未生之時譬猶海上浮雪
無所根係其中生一物如葦牙之初生
泥中也便化為人號国常立尊

コレ亦一書ノ異ニ未生ノ生ハ生熟ノ意氷堅リ
浮テアルガ如クキサシヒラケ国トナリシトシ
サマシク譬ヲホシサシト葦牙ヲ以テイヘハ
ハタカヒナシ 葦疏ニ非指混沌之時生猶
生熟之生也如上曰国雅地雅ニ長頭曰雪ハ
清淨潔白ノ色ナリ雪フリーツモル時ハ天地ノ

間清ク明カシ此国ハ水土清ク神明ノ徳マシマ
スノ十六雪ヲ以テ磨タルモ深キ意味アルコト

一書曰天地初判有物若葦牙生於空
中因此化神號天常立尊次可美葦牙
彦皇尊又有物若浮膏生於空中因此
化神號国常立尊

一 生於空中トハ天ヲ説ク若浮膏トハ地ヲトク此
段天ト地ヲワケテカタクテトク此一書ノ
心ハ天地ノハシマル時葦牙ノ如シメ則天地トワ
カレシナリ
一 天常立尊トハハ天ニ付テ

イヘリ四時タカハス日月度ヲ失ハサルハ天常
立ノ神矣コシマスヨリハ山川其トコロ得
万物其時ヲタカハサルハ国常立ノ神矣十九ハ
之其天常立国常立トアル中ニ於テ可美葦
牙彦皇尊トキサシヲ語レルモ深キ意ハ
天地共ニキサシヲ合サレハ用ルトアタハサレハ

次有^{カニ}神^{ウヒキニ}泥^ニ土^ト者^ヒ尊^ヒ
沙^ス土^ヒ者^ヒ尊^ヒ
道^ニ尊^ヒ大^ニ尊^ヒ道^ニ尊^ヒ次^ニ有^ヒ神^ト面^ニ足^ル尊^ト惶^ト根^ト尊^ト
亦^ハ曰^ハ大^ニ尊^ヒ摩^ト子^ト彦^ト
尊^ト曰^ハ大^ニ尊^ヒ道^ニ尊^ヒ次^ニ有^ヒ神^ト面^ニ足^ル尊^ト惶^ト根^ト尊^ト

吾^ア屋^カ惶^シ根^ノ尊^ト亦^ハ曰^ク檀^カ城^ノ尊^ト亦^ハ曰^ク青^カ檀^ノ根^ト
尊^ト亦^ハ曰^ク吾^ノ屋^ノ檀^ノ城^ノ尊^ト
次^ニ有^ル神^ト伊^サ弣^ノ諾^ト尊^ト伊^サ弣^ノ冉^ノ尊^ト

翁曰 国土成就ハ葛餅ヲ子ニ如ク水ニテアルハ
狭楯ニ火ニテアタメテホリホリノ次弟ニ多
ク出ルハ豊斟停シルクカタマレハ淫煮カク
テリワクハ大戸之道子リアケルハ面足ニ
畢竟ハ餅ノ五ワノモノ畢竟ハ面足ノ土ナリ
淫煮モエテ成就セシタメノ木大戸之道モ国ヲ
成就セシタメノ金此時家ハ十二理ヲ以テ云何
レモ神号切ヲ以テ奉ル木徳金徳ナト云ハ非ニ
掘ハ水土ヲ生スルノ切ヲ以テ水ノ名トス火ハカ
ワカスノ切ヲ以テ名トス水ハ煮カ切ハ木ハ水

ヲ煮テモノユヘソレヲ名トス金ハ物ヲ立カメ
メルカ切ハ大戸ハ門戸ノ心也ハ雨露ヲフセ
ケモノ屋根ノ意道モ辺モワカルモノ又野
辺山ハノ意ニテアリクトコトシレテ金ノ神
ナリエハ人事ヲ以テ名トス皆切業ノ上ヨリ
名ヲ奉ル面足ハ地面成就ト云ハ非也惶根ハ人
ノカシコイノ口訣ニ男女两根ノ少ニ言
タラス正説ハ人ノ面足ハ人ノ惶根ヲメト人
ノクニ非ス此五行比白切業ハ人ヲ出生スルナリ
ソレユヘ人ニメトイテ土神ノノ故ニ人ノ
上ヲ土神ハ引カフセテトリク土金ノ傳思合ハシ
又面足ハ土徳ヨリ一カ物アラハシタル所タト
ハハ一筆啓上仕ル所惶根ハ思々謹言ハ心
庇賢ト云モ是ヨリ始ル外ハ不出ツ、

面足トトノナル惶根ハ陽根陰根リナハル心是迄
ハ有名無形ノ神美ナリ万物生ヲ遂ルハ地面
足ラ子ハナラズ面足惶根ト云ハ地面ノ面モナリ
ユツウシ満足シタレハ心カ又君ノ訓家ヨリ出ス
伊特諾ノキト伊特冉ノミトキミ人是ヨリ尊
人ヲ君ト云シ亦諾尊冉尊ヲ主宰万物ノ神
冥ト見ルナク渥煮尊沙土煮尊木神ナリ
ウヒクシキヒナスナク土地漸クカタマリ
渥土ノ魚アラハルトコヲ尊号ヲ以テカク
イヘリ煮ハ火ノイサラシク木ノイサラシク
火ヲカクテアラハル故ニ木神トス細註ニ根
ト煮ト五音通ス纂系疏曰天地初分泥土未燥
至此初燥火知煮物而漸熟先泥後沙自如
有序大戸之道尊大苦辺尊金神也戸ト云

苦ト云ニテ家居ノコト道ト云ハ土地カタ
マナテ道ノ辺イデキタルアナカチ家居
ノイテキタルニモアラ子氏ニワ水氣カハケル
ト云次弟ニ付テソノ出衆ルサマラ云リ家居
道路モ金ノ切ニテアルニ金神トス細註大戸
之辺ト云ハ亦曰大戸摩彦尊大戸摩姫尊トイ
ル上ニアルヘシ錯簡シテマニアリ講述ニイ
ヘリサモアルヘキニヤサレト道ト辺ト相
通ナシハ大戸之道ノ別名ト見テ害モア
ラシト云彦姫トハ陰陽ニ付テ云コレニテ
陰陽耦生ノ生シ玉ヲヲ見ルヘシ木神ノ
耦生モコレト同クニルヘシ大富道大苦辺
ハ轉語ナリ面足尊惶根尊トハ土神ニ
細註ニ吾屋忌音共ニ畏ノテ語ト口訣ニアリ

ワシニシノ詞ナリ 惶ト樞城ト通ス
名法要集ニ曰元氣水徳神國扶樞尊元
氣火徳神豊斟淳尊元氣木徳神溼土
煮尊沙土煮尊元氣金徳神大戸之道
大芒也尊元氣土徳神而足惶根尊
伊弉諾尊伊弉册尊造化ヲ主トメ氣化
人体ヲ帶フコレヲ造化ト斗見レハ奥ノ
二尊ト二代ニナリ 垂加社語曰天神
七代造化ナリ地祇五神身化之神ニ伊弉
諾伊弉册兼氣化人体ヲ神号ス イサハ
サナフニメサソフノ辞ナキハナクニメ陽
徳ナリトナシハナシニメ陰徳ニ激ハ波ハヨ
ルモノナレハ陰陽和合ノ意ナリ一説ニナキ
ハキクニメ天地一氣五行混沌ノ神ハ因

常之尊也分テ水火トク 國扶樞尊
水金土トナリ 溼土煮沙土煮大戸之
成就ニ土金ノ道ニテ 五行全備ノ二神出生シタ
コフヲヲ語レリト部託ニ三神一神七代
一代ト云ヘル古語モフノ旨ヲイヘルナリ 陽
徳ナリトナシハナシニメ陰徳ナリ 伊
弉諾ハ男体伊弉册ハ女体ナリ 御領座傳記ニ
一記ニ曰伊弉諾伊弉册尊古語曰伊舍那支
伊舍那美姫先生火八剌云云 青山史曰コ
ノ段上段ニ通テ一書ナト心ヲ連續ノミル
ヘシ蓋天地ノ一タワカレス 陰陽不分時混沌タ
ルニ如雜子ニメ内ニ發生スハキ年ヲ含メル
草牙ノ如ク其キガシアルヨリ 國土今ニ長久
ナレハ國常之尊ト申シ侍ル其混沌タルウチ

ニオヲフクメルルオノ精妙ナルカ合ルハアヲキヤスフメ
天トナレ水火ノニツハ無形ノ但如天ト忌部正通モ
イハルコトク虚ニメ無實物ナレハ比皆属陽セリ故
天光成ノコトハリヨリ男ノカキリヲナセリ重
濁レルノ凝タルハ揚難ツハキテ地ニナレ木金土
ノニツハイワレモ一物ニアラスメ皆水火ヲ合
テ有形テ定タル物陰ニ属セリ故地後ニ定
ノニナレハ偶ナレノ神ヲアラスセリユニ固
常ニ尊ノ一神ヨリ皆カヤウニ説下セリ始ニ
水火ト云次ニ木金土ト云テ終ニ土神ヲイハル
ハ四ツノ者土ニヨラサレハ性ヲトクルトアタハ
ス土モ金ニヨリテ土ニ縮サレハ物ヲ生スルヲア
タハスサレハ性根尊トワケテ金氣ヲ云ハル可
見ト部家ト人ハツ、ニミヲ得テ生ト云ルハ有道

性

者ノ詞ニメ天地万物ツクニニニアラサレハ成就
スルヲアタハス人モ輕ク薄キ人ハツクニニナク
重厚ノ人ハ性根ノ金氣自然ト内ニ生スツノツク
ニミヲ表テ伊弉諾伊弉冉ノ二尊御出生アリ
シハカノ然後神聖生其中ト云ヘレハ神宮ノ
書ニ人ハ金神ノ性ヲ受テ生レトイヘリ思ヒ合ス
ヘシ陰陽五行エツウノウヘ天地ヲ父母トメ國常
立ノ一氣ニ尊トハナリ五ニ又ルハ此段ノ下ハ
上ニ詳ニ記セシフトナレハ可考合

一書曰此二神青檀城根尊之子也

二神トハ伊弉諾伊弉冉尊ヲ指セリコレニ
尊ヲテキト人体トシラシメシクナリ細
字ニメ二段ニ分ルノ説非也ツ、ニミヲ得テ

生凡思ヒ合スヘシ惶根尊ヲツクシモ子ノ尊
庄ト部家ニイリコノ一書ハ舍人親王御心
アルナリ諸述云ニ神ヲハシラハタウトヒ
イフ詞木ヲ柱ト云木ヲ陽ニトリテ尊貴ノ
祿トナシ草ヲ陰ニトリテアヲヒトクサタ
ニクサナトイテ卑賤ノ祿トセルトア
リ惶根尊 骨 眼目先師説

一書曰因常立尊生天鏡尊天鏡尊生

天萬尊天萬尊生沫蕩尊沫蕩尊生伊

斐諾尊沫蕩此云阿和那伎

天鏡尊ハ日月ヲサス夕、シマ、ニテハ日月ノ

形ハサ、ス形ハ日神ノ所ニテアラワス云
萬ハ五行ナリ前ノ天ノ五神ヲサス沫蕩ハ
五行融通妙合ノ場ナリニ尊ハ人体ヲサス
コレ秘傳ナリ水泡ヲナキタル如クナレハ沫蕩
ノ尊ヲ生トイヘリ五物五行全備ノ上伊斐諾尊
アリマシ五フトク説ヲイハハ冊モツセリコレ
因常立尊ノ明ナルコトヲ伊斐諾尊ノワタ
ワキ五フク故傳記曰天鏡尊子天万尊傳
持給之次沫蕩尊次伊斐諾伊斐冊尊傳持
天ト云云可考合物ト部家ノ説ニニ尊ニツイ
テ末生己生ヲワカテリ天人唯一ノ妙語ナ
ルヘシコノ知ハ人体トミルヘシ此段ハコトノ外
深意アルトコロナリトソ

凡八神矣テヤハシラノカミニス乾坤之道相參而化アノツナリ所以成ミチアイミシラテ

此男女コトメヲシテ自國常立ミチノコト尊ミコト近伊弉諾ニミヤ尊伊弉

冉ニ尊是謂神也ヲフカヒコトナク七代者矣ミヤナリ

涇土者ニ煮尊ミコトヨリ伊弉冉尊ニ至マテ男女ノ神十
リコレ乾坤ノ道相參而化コトワリ故ニ神ツ
ツ出生シタマフナリ木金土ノ三ツハイツレモ
水火ヲ含ノコトワリ前ニ詳ニシルニ又天神
七代把神五代ノ俗語人トニヤリ天神七
代ト云フナリ又下卷ノ終ニ五代ト云ムスレ
モナシ此七代ハ造化ニ入ルノ世ニユワルコトク
見難シ故七代ト見ルタメ如此云トアリ傳ニ

七代一代一代七代ト云上ハ説ノホスレハ國常立
一代下ハ説下セハ諾冉一代ソクレハ七代ナリ

一書曰男女ヲトモシテ耦生之神カミニ先有涇土者マシ煮尊ウヒヒニ

沙土スヒチ煮尊ニ次有ニ角カク檝尊カヒノ活イ檝尊カヒノ次有ニ面オモ

足尊タラシ檀根尊カシ次有ニ伊弉諾イサ尊ミコト伊弉冉尊イサ

檝イサノクヒナリ檝也

耦生トハ陽神陰神モロヒニナリヒ生スルヲ

タクヒナリト云ナリ角檝トハツノクムト云

心ココロ金氣イハヲ語ルナリ金神イハナレハナリ活

檝トハイクムナリ草木クサキナトノイキクト

シタルモノ内ニソナヘテキサシツノゲンテ
生スル十ト思合スヘシコレ金神トクヨリカ
クイヘリイクムト云ハ發生ヲ語レリ
口訣ニハ大戸之道大苦辺ノ別名ノヨシ見ヘ
タリサレハ夫木集歌ニモ
ニシコエヤ霜モマタヒヌサアノ葉ニツノク
ムホドノ春風ソククトモイヘリコノ一書
講述抄ニ錯簡十九ヘシ前段ノマヘニアル
ヘシトイヘリ五行ノ神ノ変ヲノヘタレハ
サモアルヘキニヤサレトコノ知ニヲキ玉ハ
舎人親王ノ御心アルヘキ一ニヤ上段ニ凡
ハ神矣乾坤云云成男女トアレハ其男女タケ
ヒナル神ト云ハ則チ前ニイヘルコノ八柱ノ
神ナリトシメシタメニコノ知ニアルニヤ

伊弉諾尊伊弉册尊立於天浮橋之上
共計曰底下豈無國歟迺以天之瓊
也此牙指下而探之是扶滄溟其牙鋒
滴瀝之潮凝成一島名之曰礮馭廬嶋

前ニコトナリシ如クニ尊ニ付テ未生己未ノ
分ナリ此処ノニ尊ハ未生ヲ以テ見ルヘシ造化
ナリヲ人事ヲ以テ語レリコレ天人唯一ノ
ノ動作ヲ以テ造化ヲアラハセリサレハ

造化ノ陰陽ハ測リカタキユヘ日用ノ人事ヲ
以テシルルヤ勿論 覺工人事ヲ以テ造
化ノナリヲ語ルハ皆此吾國ノ風流ナリ
此段ハ造化ノ陰陽和合ノ道ヲイハリ
至加杜語曰ニ尊立於天浮橋上至礙馭廬嶋
此言天之陰陽和合之道也ニ神降居彼地而
下此言人之男性和合之道也或以未生言已
生或以已生言未生皆所以明天人唯一之理也
天浮橋トハ空中ヲ指テ云日月東西ニ相對
シ陰陽感通ノ場ナリ橋ハ不通ヲ通スルノ
名浮橋ハ望日東西ニ立テ向合ノ左右ハ
晦合一ツニ合之著端モ同シコトハ陰陽
往來スル空中ノ道ナリ天浮橋トハイハリ
纂疏曰天浮橋指空虚而言確未為橋架ニ於

水上。濟不通以利天下之人。蓋陰陽往來而
造化万物為利於人也。タ、シテハタツト云
〕人ヲ以テ語ルヨリ 其縁ヲトリテシル
セリ 下皆同共ノ字 重シ陰陽合体ノ心アリ
造化陰陽兼見 瓊牙トハニ尊ノ御心ノ正
体ヲ云 陰陽全體元水ナリ 其瓊牙ノサキヨ
リシタルシホノウルヲヒカテマリテ 國土人臣ヲ
生ス此事ノ奧儀ノ習アレハ 其切イタリテ師
説ヲ受ヘシヌオト訓シヨム人アレハ元々集
ニモ大和カキニトホト書ケリソクウヘト
ト、同シコトハアリテ又ト、イヘニ習ア
ルナレハトホト訓スヘシ 滄溟ヲ一元水ト
説クハ宣シカラス道理ワリテアシ、最初
ハ水ハカリトト輕ク見ルヘシソノ水ノ中ニ金

氣ナル物アリテ地ヲシメヨセテ土トナレルニ
全破馭盧寫ハコレ全體ノオノコロ島ナリ地球
皆國中ノ柱ナリ又自凝澌 日本マウシ人
身モヲノコロシテ正通ノ説ニ自凝澌ト
ヨロシク覺ヘ侍ル寫モ結ノ字ノ意ニメシ
ノ畧語ナリ是土ノ惣体ニ猶此段ハ口授ア
コメアル処ニメ天地ワカレ始ルノ是吾人出生
ノ其日月運行万物化生ノコトワリヲロリカ
ニ見遇スヘキトコロニ非ス 古キ歌ニ
ウナムラニオノコロ寫ノアラハレテ令スベ
ラギノ御代ノ久シキ 尼侍リ

二神於是降居彼嶋因欲共爲天婦產

生^ト泐^{クニツキテ}国^ニ便^ニ以^テ微^ニ馭^ル盧^ノ寫^ヲ爲^シ國^ノ中^ニ之^ノ柱^ト此^ニ控^ル

云美^ニ賤^ト
旨^ニ選^ト

是ヨリ以下ハ人体和合ノ道ヲイヘリコノニ神ト
云ハ己生ニメ氣化人体ニテ侍ハ上ニイヘル如ク
ニ氣感遇メ天成也定テ微馭盧島トナリシ
ノ千ハ氣化ノ人体言アルヘキ一ハ被島ハ
ヲノコロ寫ノ始淡洛国ニ降居ハ初テ氣化ニ
テ生レ出サセ玉ヲ云ニ三トノニクハイハ下
ニ註ス是陽神陰神心ヲ同メ土地ヲソレクニ
ヲミワケ山川原湿ヲ定テ人ノスムヘキサニ
ヲナシ玉フアリサニヲミトノニクハイノ泐国
ヲ生トイヘリ 為國中ノ柱トハ口訣国ハ言天

他此所国中所シ指ス又心御柱ノ下ハ以天柱
奉於天上ノ所ニテ傳アリ地ハ天ノ中ニ孕
テ四方上下皆天ニシ其中心ニツ、ニレテ不動
不走不崩不落ナリシ国中ノ柱トイヘリ
口訣曰礮馭盧嶋自凝洲也ニ神降ニ有淡路西
トアリ淡路国ニ礮馭盧山ト云アリ日本最初
コロ島ト云ハ淡路国ノ惣名ナリ日本最初
ノ島山ナリトアリ又日本国モスヘテ自凝
盧島ノ秘訣アルナク旧事紀ニハ以天瓊子
指立於礮馭盧島ノ上以為国中之柱也ト
イヘリ畢竟国土經營スルヨリ先ツ道ヲ
建立ス玉集ノ歌ニ又ホコタレオノコロシ
ニニオリニシテ神ノ父母国ヲウケルハト
イヘリ此哥モ淡路国ノヲノコロ山ヲヨメル

トナリ 兼加翁曰此本説諾丹尊万物ニ首トシ
天下ヲ治ノ玉フハ陰陽合ノ万品ノ和スルト
唯一ナリ諾丹尊ヲ實ニ陰陽ノ神トナシテ
云ヘリ其故ニ国上生ミ玉フトカケリ天
浮橋 上ニ立ト云滄溟ヲ得ト云オノコロ
島才成ト云皆ソノ一ノ尊ヲフカクナリ
ナツムヘカラスヲノコ島嶋ヲ以テ国ノ中ノ
柱トメニコトハシノコ島ハ我国ノ中央ナル
ニヨシカク表シ玉フク陰神陽神ノ左施右
施ノ義ハ此所ヲ以テ直ニ陰陽ノシワサシホ
シ玉フミハシラノ一ハ猶子細アルナク

故

而陽神左旋陰神右旋分巡国柱同會

口訣曰陽神左旋陰神右旋者陰陽自然之性
分巡國柱者行化之始同會二面者二神同志也ト
アリ日月ノ流行四時タカハナルトコト夫婦ノ道
ニ尊國ノ經營メメツリハシメ玉フ処天人唯一ニ在
姫世記曰左左右右左歸右迴事元方事通事祭ト
アルモ此コトハリ人倫禮法モ此ニハシニルナリ
又秘訣アリ上ニ云如ク地ノ中間ニツ一リコツテ
其外ヲ陽陰ノクルナリ左右ハ陰陽ニ付テ對待
之入旋ハ流行ヲ云ナリ會二面トハ日月交會男女
交合同ニコトハリ今以テ夫婦ニスルトシ俗間ニ
ヒトツニスルトイヘリ面白キコトニヤ無加社語曰
二尊相對日月相望也陽神左旋是日自東而上
陰神右旋是日自西而下也同一面旋合則日月晦合

時陰神先唱曰意哉遇可羨少男焉

此云鳥陽神不悅曰吾是男子理當先唱

如何婦人反先言乎事既不祥宜以故

旋

可羨トハ下ノ可愛ト同シヨキナリ褒羨ノ意男子
トハ陽ハ物ヲ生スルヨリ云ヘリ中臣後二天ノ
最人トイヘル思ヒ合スヘシ婦人トハ回事記ニ
手弱女ト書テツヤメト訓セリ柔弱ノ意
不祥トハ祥トハスカト通ススカシカヲ又事
ヲ云カクルノ和語カカシハ目出タカラヌトク

十リ浮橋ノ段ニ共ニ計トアルハ造化ノ陰陽合
 スルノ意ユノ思ハ夫婦合スルノ意思合テ見ル
 ヘシ是ヨリ下人事ト計ニルアシ造化人事一
 念点アルヘシ造化ノウヘテ陰陽ノ交感スル
 一如此ユ一人事モ如此ト見ヘシ天地人物感合
 ニアラハニイヒアヲハセル一尤所要ノ一ナレ
 ハ十リコレ神道正直ノイタリナルヘシ
 及至産時先以淡路洲為胞意所不快
 故名之曰淡路洲迺生大日本
 騰下皆 豊秋津洲次生伊祿二名洲次
 效此

生筑紫洲次雙生隱岐洲與佐渡洲世
 人或有雙生者象此也

産トハ大八洲凡ニ化生ノ御子ニノ經營シ玉フ一ヲ云
 ヘリ 蛭加社語曰陰陽生国土山海草木ニ神生子
 治之為胞トハ胞衣ハ生ル子ノ身ヲ包ム物
 ニメ初ニ生スルモノ、淡路洲最取初ニ
 生レタリシ島ヨリカク云ヘリ 吾取云
 ハ大國ヲ生ント思召トコロニ小國ナルユヘニ
 吾恥トイヘリトサレト此訖マシ、始テ夫
 婦トナリ御子ヲ出生シ玉ヘハア、ハツカ
 シト云ユトクハハツカシキ人情ヲ云ヘルニ
 以下ノ大八洲ハ上ノ磯馭盧嶋ヲ段々ニ經

管メロカテルノ講述抄ニ意所不快ヨリ以下
十一字ヲ細字註ナルヘシト記セリサモアル
ヘキ一ニヤカレハトカク其文段ノトナリ見
モ恐シケレハトカク其文段ノトナリ見
ヘシ諸抄古ヘヨリ誤来トアレハシテ此
十一字文字ナリトテ誤来トモ覺ヘ侍
ス其外和語ナトテ彼ノ抄ニ多ク故ナレ
モイフカシ漢字ハ借モノニテ和語ヲ以テ
日本書ノナラハル、一ニ侍シハ私意
シ以テ改ル、大ニカレハシ或ハ舊
事記古事紀等ニ証拠アル和語ナラハ若ハ
シカルヘキ一モアリナシモ家々ノ記
録ナレハイカ、ニ覺ス以下ニカレテカノ
右ノアラニシ多ケレトシレ侍ラス皆コノ

例ヲ以テシルヘシ 大日本ハ畿内東国ニテ地ツ
ツキ西ハ今ノ中国シカ子テ見ルベシ此題号
ハ本書ノ大日本豊秋津洲ノ上三字ヲ取テ
勅題トシ玉フ 豊秋津洲トハ神武天皇三
十有一年夏四月乙酉朔望興巡幸因登腋上
無間丘而迴望国狀曰妍哉乎国之獲矣雖内
未綿之真追国猶如蜻蛉之醫哈焉由是始有
秋津洲之号也諸抄此語ヲ以テ秋津島ヲ大日
本ノ国号トナスハア、神武天皇聰明ナリ
トテ嘆同ノ丘ニ登ニシテ一眼ニ大日本ヲ見玉ハ
ニヤ是ハ大和国ハカリノ一ニ彼ナレテ取テ
後ニ日本ノ号トセリ以下ノ国ノ名ハ後ニ付タ
ルモノナリ今コ、ニテ生玉ヲ処今テノ秋津洲
ナリト云ヘルナリ又蜻蛉ヲ以テ譬玉フ一是モ

活物ニテ游魚ト同シ意ナリ 釋日本記曰
問神武天皇御宇始有秋津嶋号云云而神
代記此号如何答曰如此之名号上代雖未
得其号以史書撰述之時之名字載之有和
漢之例也 按二成務天皇五年十二月始
分国郡境 伊豫二名洲トハ伊予都彦
伊予都毘賣二神降居此洲為之鎮護故
名ト纂疏ニ見ヘタリ 筑紫洲ハ地形似木
免下云ヘリ又西国ノハテナレハツクルト云
心ニヤ 釋記ノ説可考 隱岐洲ハ沖ト云
義ニヤ 佐渡洲ハ世戸ト云義ト口訣有
世人或云云輕ク見ルヘシ口訣ノ説同時ニ
生ス云云此二洲同トキニ出生スレハフタコニ
生ト云ヘリ一度ニ人モ二子ヲ生ラフタコト

云モコノ類人モ同シト云ルルナレヘシ
貝原厚信記 筑紫ハツク石也首ハ海
邊石垣ナリ 菅家御詠 筑紫路ヤキ
世ノ松原石夕、ミクスレ世ニテキミハ
一ニセセ 猶国々名ノイ説々多ケレ考吟
味スヘシ 厚信ノ説ヨロシラス
次生越洲次生大洲次生吉備子洲由
是始起大八洲国之號焉對馬寫壹岐
島及處々小寫皆是潮沫凝成者矣亦
曰水沫凝而成也

国ヲ溯ト云ハ淡路島ヲ始テ生玉ヒ又自凝寫
ト云ニ依テ国々ヲ溯ト云ハ大八洲トハ二尊
御出生ノ時ハ日本国何レノ国何ノ村屋ト云境
目モナシ故ニ先日本ヲハケ国ニヒテキ分テ玉
フ是ヲ大八洲ト云 越洲モ地ツキノ国トレ
ト云 吉備子溯ハ備前備中備後ノイハ
備前ノ子寫ニト云ハアノ小ナキ寫十
レハ此寫ニテハナシ吉備国ノイナリ同隣ノ
始テレハ其時ハ小島ニシテ後段々凝テ大志
国トナリタルハニ 纂系疏ニ伊豆ノ大洲ト
アレハ伊豆ノ国ヨリ關東ヲコノテ可見
對馬ハ口訣ニツイニ島早速之謂又延佳ノ説
ニ船ノヨル処ヲ津ト云ハ其義ニヤト云

壹岐島ハ口決ニ雪ノ潮沫凝如雪トイヘリ
上ニ云如ク強テ解カクシイワレニテモシハ
ラク取テトクヘシ 潮沫凝成云又水ノ
沫ノ凝ルト云同シイハ大日本ハ洲モ共ニ潮
沫ノ凝ルハレハ經營ナサレシ国ヲ御子ノ
如ク書シ其余ハ自然ト出来タル如クシ
セリ兩方交互ノ可見潮沫ハ海中ノ島水
沫ハ水中ノ島ト云ハウカテリ 亦曰云ハ
異説ハ見ユル

一書曰天神謂伊弉諾尊伊弉册尊曰
有豐葦原千五百秋瑞穂之地宜汝往

循之廻賜天瓊朶於是二神立於天上
浮橋投戈求地因盡滄海而引舉之即
戈鋒垂落之潮結而為嶋名曰礮馭廬

嶋

天神八天御中主尊國常立尊ノ神靈之其神
灵アリテ陰陽升降スルヨリ之豊葦原ハ釋
記曰私記曰此國者是肥饒豊富之國也凡
肥美之地葦草多生故取喻之珠曰千五
百秋者是指長久之秋必得珍之稻穗也云云
千五百秋ト云ヘルハ千秋乃歲祝ク意四時ノ

ウキワキテ秋ヲイヘルハ五穀ノ目出度コ口
ナリ殊ニ瑞穂ノ國云ツケタルニ瑞穂
國トハ稻穂ノミツクシク生スル國ヲイ
ヘリ水火ニアラカレハ瑞穂ヲ生スルヲイ
ハス面白クニヤ 盡滄海ノ三字回事紀ニ
鳴滄海ト作リ三字引合テシシコホロクニ
カキナシテトヨノリ是モフルキ和語ナリ
シシカキナラフス声ナルヘシ其外文義分明
二、神降居彼島化作八尋之殿又化堅立
天柱陽神問陰神曰汝身有何成耶對
曰吾身具成而有稱陰元者一處陽神

曰吾身亦具成而有稱陽元者一處思
欲以吾身陽元合汝身之陰元云爾

化作ハウミクツルノ訓ハ八尋殿ハ家居ノ
ナリハ鳴ニカケテ詭キ又寸方シ云且ハ理ツ
リテ詭ヨロシカラス只雨露シフセク為ニ御
立ナサルト見ヘシハ尋ハ古ノ家ヲ云コトハ是
屋作ノ始ナリハ八字ハ八百万ハ重神ノ類ニ
ノ神道ニ愛スルノ開闢ノ始生スル人皆
穴ニスムコレニヨリテニ尊家居ヲハシメテ
作リ玉ヒ雨露ヲフセキ身ヲ安スルマウニ
フシ玉フイニ大昔辺大夕之道尊ノ下思

合スヘシ家ハ柱ナケレハタス柱尤重キア
ルカラ改テ又字ヲ加フ又天柱国柱ト云同
一ノ国柱ト云ハ土地ノ一ニシテ他ハ天ノ中ニ
ハラニレテシニリタルモノユヘ柱トイヘリ天柱
ト云ハ地ハ天ノ根トナリ天ノ柱トナルハ地ノ故
天柱ト云コハ土地ノ合点ニ見ルヘシ家ノ柱ヲ
立ルコトハノ縁ヨリ道体ノ柱ヲ建立シ玉フ
一ヲトク口決曰柱一心正定之理也

即將巡天柱約束曰妹自尤巡吾當右
巡既而分巡相遇陰神乃先唱曰妍哉
可愛少男歟陽神後和之曰妍哉可愛

少女歟遂為夫婦先生蛭見便載葦舩
而流之次生淡瀨此亦不以充見數

妍哉ハ古事紀ニ阿那余夜志愛表登古表
トアリテアオニマロシマト云コ、ロナリ
ヨキナリヒヨシシヒト云同シコトナリ
コノ段一書ノ異ナリ猶以テ逆ナルコトヨリ
人事ニシイテ蛭見ヲ生造化テ淡瀨ヲ生
ソノシルシナリ蛭見ハ習アリテ柔弱ナル
御子ニノ阴阳感偶ノ変ナルニヨツテ如此御子
生玉ヲ早竟士徳ハカリニテ金氣ノシニナリナキ
神ナレハ蛭見ト申ハ載葦舩云艱々苦勞スル

時ハ金氣生スル一ニ御子ヲ惠ニ玉ヲ教之蛭見
ノ舟ニ乘テ流ニ行玉ヲ其未何クニ俟リ玉ヲ
シレス密加遠遊紀行伊豆国蛭島詩ニ曰理會无
難神代事蛭見不立遺抱投遺蹤寥落無人織只
倚頼朝祢此瀨コレヲ見レハ古書ニ考アリテ作
リ出シ玉ヲマ西宮ヲ夷三郎殿ト号ニテ蛭見
ナリト云傳ナルハ誤ハ西宮ハ事代主命也淡瀨
紀瀨ノアハシニニマ小国ナレハ御意ニ漏メスカ
レ子ノ数ニイレ玉ストナリ

故還復上詣於天具奉其狀

是天神ノ勅ヲ受テトアルヨリ天ニニウテト
云ルハ勿論天御中主尊ト申シ奉ルモ造化ノ
神灵ナレハ人体ニアラスナレハ還ニフテ、誰ニ

其アリサニシ申シ玉フヘキヤ如此造化人事
邊一ハ如何ソヤアルニシキ一ト御心ニ夕子
カヘリ見タニラ十勿論心ハ天神ノ夕ニセノ
十レハカヘリ一申玉フモ又天ノ神ノ教ヲ受
玉フモ其イワレマリ過ヲ天神ヘ告玉フ一
正道ノ御心深ク考ヘシ

時^ニ天神以^テ太^ク占^ム而^{シテ}合^ス之^ヲ乃^チ教^{ヘテ}曰^ク婦^人
之^レ辭^ハ具^レ已^ニ先^ニ揚^ル乎^カ宜^ク更^ニ還^ル去^ル乃^チ卜^シ定^ム時^ヲ
而^{シテ}降^ル之^ヲ

太^ク占^ムハ至^リ極^ニ傳^ハアリト合^スハ裏^ニ合^スニテニヘ又^ク處^ニ
ソノニヘノ処^ニシル一トニ衣^ノ裏^ヲ見^ルコトク

ナレハウラト云々ノ教ハノニコシテツミミ玉フ
一ノサレハ太^ク占^ムノウラハ神^ノ人^ノ上^ニテ十^ケレハ
及^ヒヒカタシ故^ニ諸^ノ神^ノ中^ニ天^ノ見^ル屋^ノ命^ツカカト
リ玉フ一ヘコレニヨリテ御^ノ子^ノ孫^ノ部^ノ姓^ヲ
賜^ルル諸^ノ抄^ニ龜^ノトノ事^ヲ引^キ又^ク鹿^ノノ肩^ヲ
骨^ヲ又^クキテト事^ヲ取^リ合^セルセリ皆^ク
ヨロシカラス龜^ノトノ事^ヲ取^リ合^セルセリ皆^ク
ヨリ出^ルル一ヘサレレコニテハ云ヘカラス
時^日トトト云モ秘^ノ傳^{アル}一ト

故^ニ神^ノ改^メ復^ス巡^ル狂^ル陽^ノ神^ハ自^ラ左^ニ陰^ノ神^ハ自^ラ右^ニ
既^ニ遇^フ之^ノ時^ニ陽^ノ神^ハ先^ニ唱^フ曰^ク妍^カ哉^カ可^ク愛^ム少^ク女^ト

歟陰神後和之曰妍哉可愛少男歟然
後同宮共住而生兒號大日本豊秋津
淵次淡路淵次伊豫二名淵次筑紫淵
次億岐三子淵次佐渡淵次越淵次吉
備子淵由是謂之大八淵国矣瑞此云
彌圖妍哉此云何那而惠夜可愛此云
哀太占此云布刀磨爾

正段ハ以淡路淵為胞トアリコハ不然億岐
三子淵トアツテ佐渡淵ヲ別テ雙子トナシ
大淵ヲノミケリ

一書曰伊弉諾尊伊弉冉尊二神立テ
天霧之中曰吾欲得国乃以天瓊矛指
岳而探之得礮馭盧嶋則拔矛而喜之
曰善乎国之在矣

此一書ハ混沌ノ心得アルヘシ天霧ハ天地未
成就ナケレハ何レヲイツレヒアマソノワカタ

ナルアリカニ之ヲ下崩御ノ段ニ朝霧ハ
ミアリテカホリミテルカト云ル思合スヘ
シカキリト云カハ国挾搦ノカノ合点国土
ノ初ナレハカリ云ヘリ上段ノ浮橋ノ上ニ立
同シ合点ナリコノ一書ハ全ク人事ヲ以テ
造化ヲ説リ人事造化如此ト可見浮橋ト云
カノ異説ナリ

一書曰伊弉諾伊弉册二神坐于高天

原曰當有国耶乃以天瓊杵畫成磯馭

盧嶋

是又浮橋ノ合点ニ高天原ト云ルハ空中ヲ指シ

一書曰伊弉諾伊弉册二神相謂曰有

物若浮膏其中蓋有国乎乃以天瓊杵

探成一島名曰磯馭盧嶋

是猶浮膏而漂蕩トアル一書ノ合点ナリ
以上ノ一書家々ノ記録口授ナレバアリ
トイヘ天瓊杵トイヘルハイツレモ同シ心
得アルヘキヲ浮膏ノ如キモ瓊杵ノ以テ
探ナリ此一書伊弉諾 典尊ノ膏ヲ

以テ譬玉フ一見ヘタリ 然レハ前ニアル如
浮魚フル雪根係ル処ナキカ如シノ譬モ皆
是ニ尊ノ御言タル一明ケシ以此此用解
ノ段ハ不残ニ尊ノ御言ニ是猶浮膏而
漂蕩トアル一書ノ合点ニ

一書曰陰神先唱曰美哉善少男時以
陰神先言故為不祥更復改巡則陽神
先唱曰美哉善少女遂將合交而不知
其術時有鵲鴿飛來搖其首尾ニ神見

而學之昂得交道

鵲鴿ニヨツテトツキノ道ヲウルト 此鳥
誘テ感通シ玉ヘルニ是モ太白ノ筋ハ
ソノ道ヲシラヌトキニ鳥ヲ見玉ヒテ
アノ如クセントカトリ玉フ 此天神自然
ノカシヘニ鵲鴿ハ度ナフリニ尾ヲ動
スナリヲ以テ云ヘルニ 口決ニ謂之稻負
鳥トアリイハハイモナセニイモセト云ハ
又イモナセノ畧ナリヲホセハ教ナリイモ
セラシヘトリト云コトニ 二尊ニトツテ
道ヲ教ヘシヨリカク名付タルニヤ 又陰陽
交會夫婦婚合ノ道ハ自然ニ出テ人ノ

タメノ私ニアラス鶴鶴ノ自然ノ形ニナラヒ
テ得交道ト云ヘル曲言ハコトニ深キ理リ
アリ夫婦交合ハ自然ニ出テ人物生々ノ
道ナレトワヅカニモ気ノタメニヒカレテ自
然ノノリヨククフニ時ハ徳ヲソコナヒ身
ヲヤフリテ終ニ禽獸ノ域ニ墮ルナ甚タ
イニシムヘキ事ハ鶴鶴ノ教ニヨツテ十二
ニトツキノ道ヲシロシメスト云イニテハ
ナシ自然ト天神ノ教ヲ所ニ依テ感發有
タルナリ

一書曰二神合為夫婦先以踐路洌淡

洌為胞生大日本豊秋津洌次伊豫洌
次筑紫洌次雙生億岐洌與佐渡洌次
越洌次大洌次子洌

淡洌ヲ合セテ胞トスト云ル一書ノ替リニ
釋記ニ二胞ハアルニキ説アリ可考

一書曰先生淡路洌次大日本豊秋津
洌次伊豫二名洌次億岐洌次佐渡洌
次筑紫洌次壹岐洌次對馬洌

越泚大泚子泚十レ又フタコヲニニスト不言
又為胞ノ説十三先軍此一説大八泚ノ正説ト
スレト木段ヲ用ユヘシ

一書曰以礮馭盧嶋為胞生淡路泚次

大日本豊秋津泚次伊豫二名泚次筑

紫泚次吉備子泚次雙生億以泚與仇

渡泚次越泚

以礮馭盧嶋為胞トイヘリ無大泚全体ノコ
口嶋ヲ為胞アリ是オノコ寫ヲ以テ八泚ヘ

カフセテ見ル意入

一書曰以淡路泚為胞生大日本豊秋

津泚次淡泚次伊豫二名泚次億岐三

子泚次佐渡泚次筑紫泚次吉備子泚

次大泚

口決曰大日本之次有淡泚而無越泚又泚
為先大泚為後石廿二ノ真説ヲニ
如此才ク載セ玉フヨリ何トハ十三
大八泚ノ成就セル合点アルナシ



一書曰陰神先唱妍哉可愛少男多便
 握陽神之手遂為夫婦生淡路瀨次蛭
 兒

陰神ノ一ツ唱ハ玉フノミニニアラヌ陽神ノ
 御手ヲ十ニ逆ナル一ニ陰陽ノ理ニ
 ヲカヘリ淡路瀨蛭兒ヲウミ玉フ造化人
 事共ニ其理リカクソコトニ延佳ノ抄ニ
 伊豆国蛭カ兒嶋十ルヘシトイヘルハアミ
 造化人事共ニ違アレハ如此ト云フコトシラ
 セルナルヘシ

